

III. 刊行報告書抄録

第199集 東下地遺跡

東下地遺跡は、豊橋市の北東部、豊川によって形成された左岸台地と豊川の支流である神田川に挟まれた標高 7 m 前後の沖積地に位置する。発掘調査は、道路改良工事（主）東三河環状線にかかる事前調査として実施した。調査期間は平成23年 5 月から平成24年 3 月、平成24年 6 月から 7 月である。調査面積は平成23年度が10,630㎡、平成24年度が274㎡で、計10,904㎡である。

発掘調査の成果としては、弥生時代中期末の水田跡と鎌倉時代の河川跡、墓地、柱穴群を中心とする複合遺跡であることが明らかになった。水田跡は、段丘縁辺から沖積低地へ続く緩斜面で検出された。地形に沿う溝の両側に10㎡前後の小区画水田が展開する。13世紀前後の鎌倉時代を中心とする遺構群は、蛇行する河川跡から多量の山茶碗・小皿・土師器皿などが川岸に沿うように検出され、河川右岸に集石墓や土壇などが重複する墓地、さらに柱穴群が展開する。東三河の中世遺跡としては土師器皿の組成が高く、土壇群が展開することから、墓地を中心とする遺跡として注目される。（永井宏幸）



東下地遺跡自然流路（454SX）出土遺物

報告書抄録

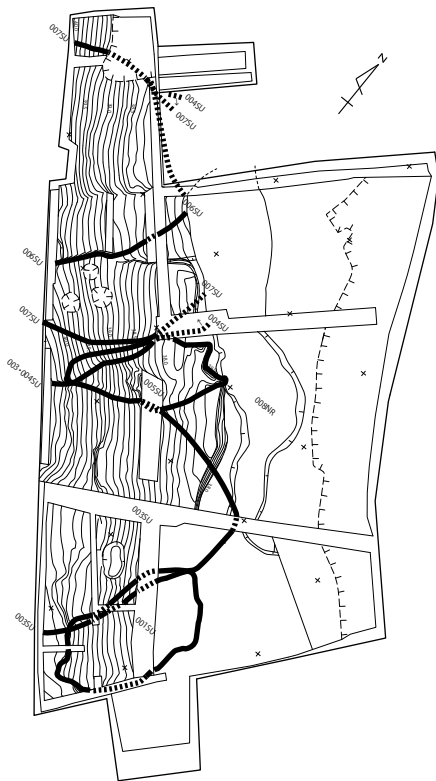
ふりがな		ひがししもじいせき						
書 名		東下地遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第199集						
編著者名		永井宏幸、鬼頭剛、株式会社パレオ・ラボ(小林克也ほか)						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2016年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひがししもじいせき 東下地遺跡	あいちけん とよはしし 愛知県豊橋市 いしまきほんまち 石巻本町	23201	791299	34度 47分 51秒	137度 26分 14秒	2011.05.09～ 2012.03.16 2012.05.09～ 2012.07.27	10,640 274	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東下地遺跡	集落	弥生時代 鎌倉時代	水田、溝 河道、墓、掘立柱建物 土坑等		土器、石器 山茶碗、小皿 古瀬戸製品、中国産 陶磁器、土師器皿、 土師器鍋、金属製品		弥生時代中期末の水 田跡 鎌倉時代の河川祭祀 と土坑墓・集石墓など の墓群、多数の柱穴群	
文書番号		発掘届出(23埋セ第1号・2011.4.1、24埋セ第1号・2012.4.4) 通知(23教生第214号・2011.4.20、24教生第289号・2012.4.27) 終了届・保管証・発見届(23埋セ第175号・2012.3.16、24埋セ第61号・2012.7.27) 鑑定結果通知(24豊教美21・2012.4.5、27豊教美53・2015.5.7)						
要約	東下地遺跡は、豊川の左岸に形成された台地と豊川の支流である神田川の右岸に挟まれた沖積地に位置する。発掘調査の成果により、弥生時代中期末の水田跡と鎌倉時代の河川跡、墓地、柱穴群を中心とする複合遺跡であることが明らかになった。水田跡は、段丘縁辺から沖積低地へ続く緩斜面で検出された。地形に沿う溝の両側に10㎡前後の小区画水田が展開する。13世紀前後の鎌倉時代を中心とする遺構群は、蛇行する河川跡から多量の山茶碗・小皿・土師器皿などが川岸に沿うように検出され、河川右岸に集石墓や土壇などが重複する墓地、さらに柱穴群が展開する。東三河の中世遺跡としては土師器皿の組成が高く、土壇群が展開することから、墓地を中心とする遺跡として注目される。							

第202集 八巻古窯跡

八巻古窯群は、知多郡東浦町緒川八巻に位置する。地形的には丘陵地帯を開析する小規模な支谷の南西側緩斜面に位置している。

今回の調査は八巻古窯群としては二度目となっている。1次調査は昭和36(1961)年に実施され、窯体3基が検出されている。今回の調査区は1次調査の調査区北東部に該当し、1次調査で確認された窯体に伴う灰層を検出した。

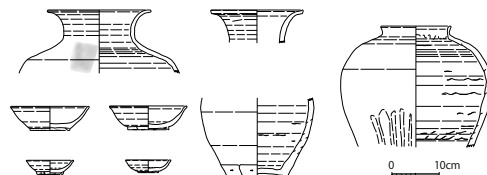
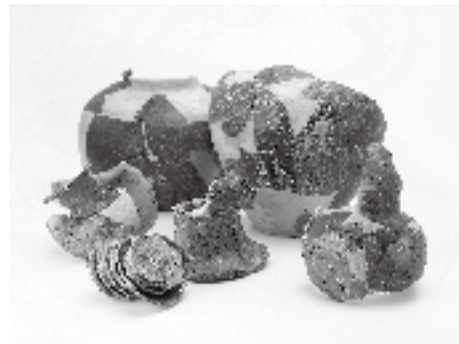
出土遺物は大半が八巻古窯群の製品とその窯道具である。前者の器種には碗・小碗・皿・壺・瓶などが見られ、灰釉系陶器(山茶碗)窯としては比較的多器種に及ぶ。(池本正明)



調査区全体図 (1:400)



調査区全景



出土遺物

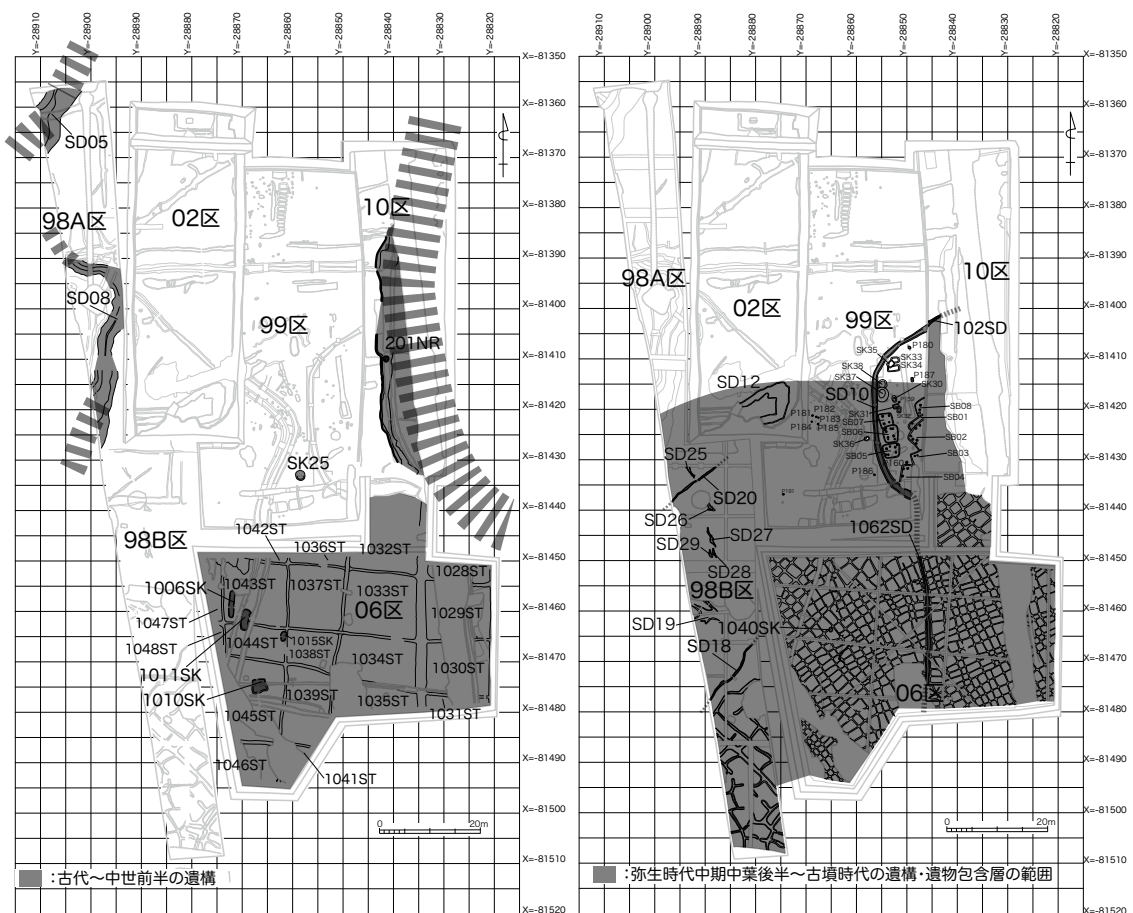
報告書抄録

ふりがな		はちまきこようぐん							
書 名		八巻古窯群							
副 書 名									
巻 次									
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号		第202集							
編著者名		池本正明 小澤一弘 鈴木恵介 株式会社パレオ・ラボ							
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日		西暦 2016年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はちまきこようぐん 八巻古窯群	あいちけん ちたぐん 愛知県知多郡 ひかしうらちようおがわ 東浦町緒川		23442	470011	34度 58分 80秒	136度 55分 3秒	2010.5 2011.04～ 2011.07	50 770	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
八巻古窯群	窯跡	平安時代末 ～ 鎌倉時代 江戸時代	灰原 流路			中世陶器 近世陶磁器			
文書番号	発掘届出(21埋セ6 21.4.3・22埋セ131 22.3.10) 通知(21教生158 21.4.17・22教生2616 22.3.23) 終了届・保管証・発見届(21埋セ29 21.5.28・22埋セ128 22.7.27) 鑑定結果通知(21教生604 21.6.18・22教生2087 22.12.24)								
要約	八巻古窯群は昭和36(1961)年に愛知県教育委員会によって調査され、窯体3基が確認されている。 今回の調査は窯体下方の斜面部に該当するが、従来より知られている窯体に伴う灰原の末端が検出で きた。								

第203集 伝法寺野田遺跡Ⅱ

伝法寺野田遺跡は愛知県一宮市南西部にある遺跡で、本報告は平成10年度～平成14年度に当センターにて発掘調査を実施し報告した地点の東から南東に隣接する箇所のものである。

本報告書では、確認された遺構と出土遺物の検討から、弥生時代前期～弥生時代中期中葉の小区画の水田遺構、弥生時代中期中葉後半～古墳時代の小区画の水田遺構、古代～中世前半期の条里型の水田遺構の3面の水田遺構があり、その後中世の方形土坑、江戸時代後期～近代にかけての土坑・溝などが展開することを確認できた。また出土遺物では、弥生時代前期の浮線文鉢の胎土分析を実施し、海綿骨針が含まれる特徴のある胎土であることを明らかにし、土器に含まれる砂礫が北陸地域に由来する可能性を指摘した。(蔭山誠一)



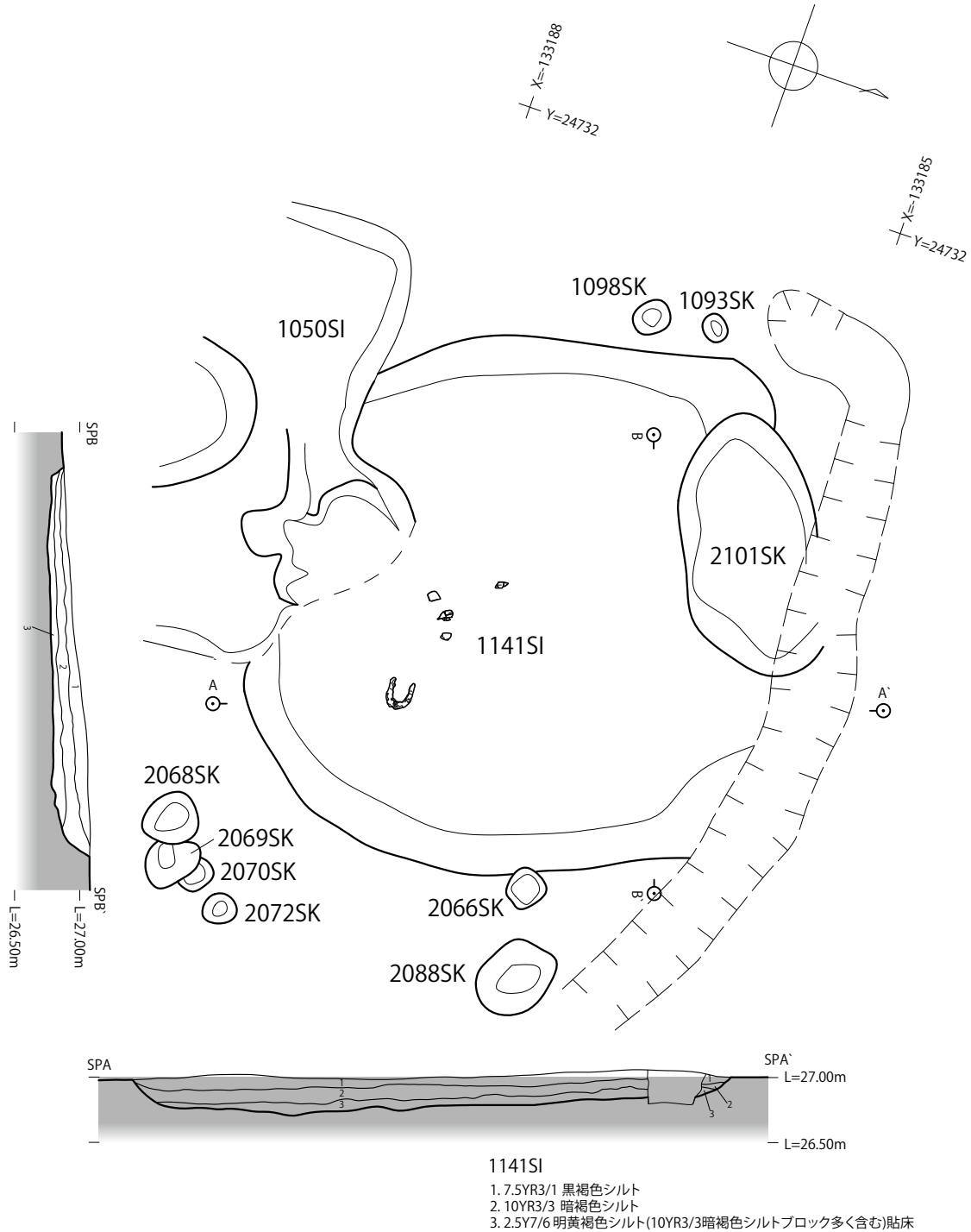
伝法寺野田遺跡の遺構変遷 (1:1,500)

報告書抄録

ふりがな		でんぼうじのだいせき						
書 名		伝法寺野田遺跡II						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第203集						
編著者名		蔭山誠一、鬼頭剛、永草康次						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2016年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
でんぼうじの だ 伝法寺野田 いせき 遺跡	あいちけん いちのみやし 愛知県一宮市 たんようちょうでんぼうじ 丹陽町伝法寺	2302	020103	35度 15分 46秒	136度 50分 39秒	2006.11.1～ 2007.3.30 2010.10.1～ 2010.12.28	3,800㎡	五条川右 岸流域下 水道事業 ・五条川右 岸流域下 水道事業 焼却施設 建設に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
伝法寺野田 遺跡	水田・ 集落	弥生時代 前期 ～ 江戸時代 後期	水田遺構・溝・土坑		弥生土器・土師器・ 須恵器・灰釉系陶器 施釉陶器・打製石鏃・ 磨石・鉄製釘・鉄製把手 ・木杭			
文書番号	発掘届出(18埋セ第50号・2006.10.3) 通知(18教生第1713号・2006.10.30) 終了届・発見届・保管証(18埋セ第115号・2007.3.30) 鑑定結果通知(19教生第903号・2007.7.13) 発掘届出(22埋セ第138号・2010.8.24) 通知(22教生第1236号・2010.9.7) 終了届・発見届・保管証(22埋セ第196号・2010.12.9) 鑑定結果通知(22教生第2473号・2011.2.17)							
要約	弥生時代前期～弥生時代中期中葉後半と弥生時代中期中葉後半～古墳時代前期前半の小区画型水田遺構、奈良時代～鎌倉時代の条里型水田遺構、中世後半～近代の水田遺構・溝・土坑が確認できた。愛知県の水田遺構の変遷を解明する上で、貴重な資料になるものと思われる。							

第205集 野添遺跡

野添遺跡は豊橋市北部に所在し、豊川左岸の河岸段丘上に立地する。調査区は、河岸段丘上の縁辺部に位置し、南側及び東側は、神田川沿いの低地へと落ちる段丘崖となっている。調査では、古代の竪穴建物、掘立柱建物、土坑、遺物集積、中世の大溝等が確認された。(松田 訓)



1141SI 平面・断面図 (1:50)

0 1m

報告書抄録

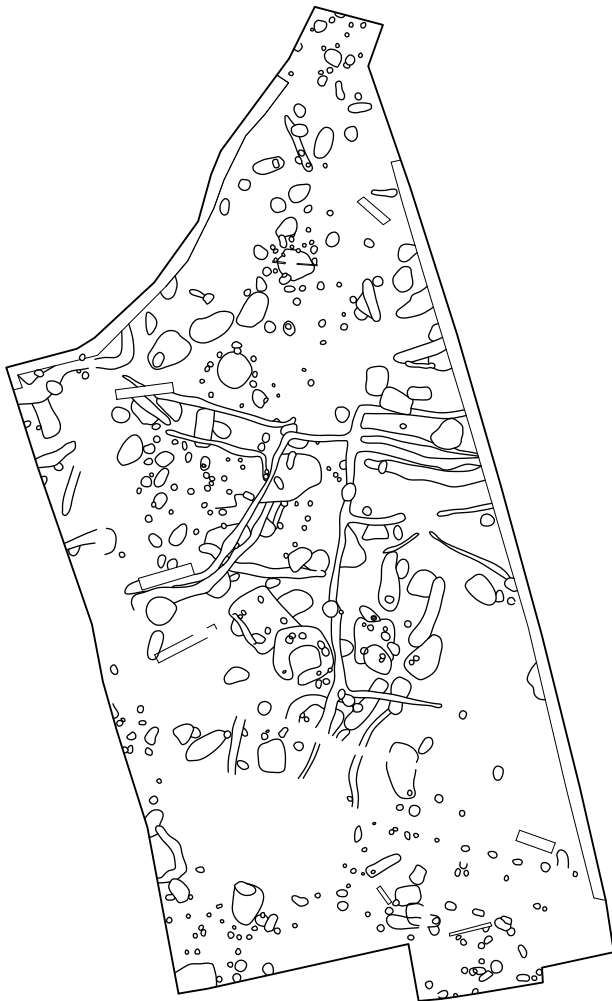
ふりがな		のぞえいせき						
書 名		野添遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第205集						
編著者名		松田 訓・パレオラボ株式会社・日鉄住金テクノロジー株式会社						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2016年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
のぞえいせき 野添遺跡	あいちけん とよはしし 愛知県豊橋市 いしまきほんまちにししもじ 石巻本町西下地	23201	790844	34度 47分 55秒	137度 26分 15秒	2013.11.05～ 2014.03.25	2,000	道路建設（主） 東三河環状線 道路改良工事 に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
野添遺跡	集落 ほか	古代 ～ 中世	竪穴建物、 土坑、 大溝等		土器、 須恵器、 灰釉陶器、 山茶碗			
文書番号		発掘届出(25埋セ第79号・2013.9.20) 通知(25教生第1889号・2013.10.11) 終了届(25埋セ第159号・2014.3.28) 保管証・発見届(27埋セ第19号・2015.5.7) 鑑定結果通知(27豊教美第54号 2015.5.7)						
要約	本遺跡は豊川及びその支流によって形成された河岸段丘の高位面に立地し、古代の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑などのほか、中世の大溝も検出され、居住域が想定される。本遺跡は、周辺の台地上に展開する散布地などとともに、当該期の遺跡群に含まれているものと思われ、周辺の集落遺跡を含めた各時代の生活実態を解明する上で、貴重な資料として位置づけることができよう。							

第206集 多り畑遺跡

多り畑遺跡は豊橋市石巻町字札辻に位置する。地形的には、豊川の支流となる神田川の段丘上に位置している。調査区の標高は28.5mとなる。調査は平成21年に実施し、面積は1440㎡である。

調査の結果、縄文時代早期、弥生時代後期から古墳時代、中世の遺構を確認した。

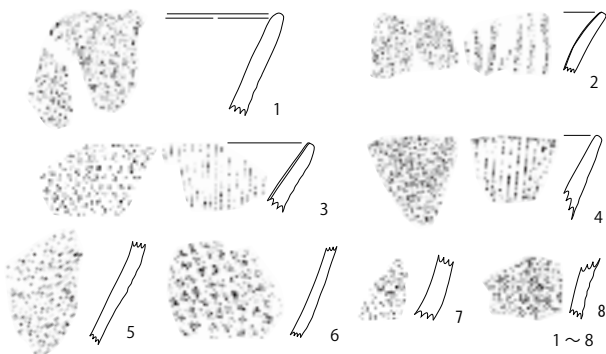
このうち、縄文時代早期の遺構は調査区の北側直径30m程度の範囲に分布する。219SIはやや小規模となるが当該期の竪穴建物の可能性を持つ。(池本正明)



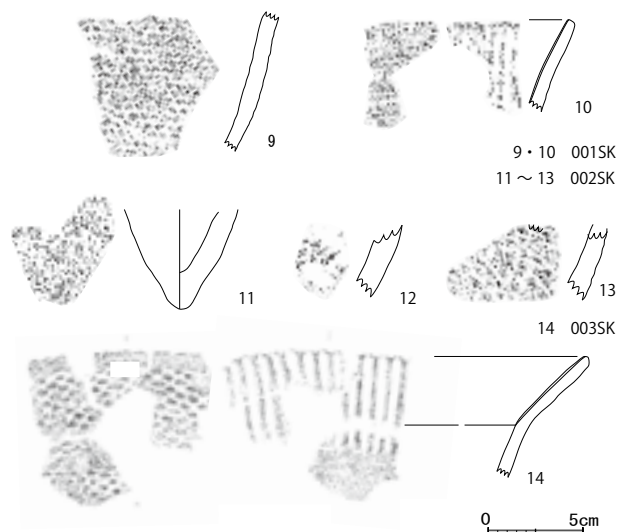
調査区全体図 (1:500)



上調査区全景・下219SK



1～8 219SI



9・10 001SK
11～13 002SK

14 003SK

0 5cm

出土遺物

報告書抄録

ふりがな		たりばたいせき						
書 名		多り畑遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第202集						
編著者名		池本正明、村上昇、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2016年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
たりはたいせき 多り畑跡	あいちけん とよはしし 愛知県豊橋市 いしまきほんまち 石巻本町	232010	790326	34度 47分 43秒	137度 26分 19秒	2010.5 2010.10～ 2011.02	100 1,440	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
多り畑遺跡	集落	縄文時代 ～ 江戸時代	竪穴建物、掘立柱建物、 土器棺墓、土坑、溝等		縄文土器、石器 弥生土器、土師器 中・近世陶磁器、			
文書番号	発掘届出(21埋セ8 21.4.4・21埋セ44 21.8.4) 通知(21教生118 21.4.13・21教生1060 21.8.14) 終了届・保管証・発見届 (21埋セ26 21.5.20・21埋セ120 23.3.10) 鑑定結果通知(21豊美172 21.7.7・21豊美576 22.3.9)							
要約	調査の結果、縄文時代早期、弥生時代後期から古墳時代、中世の遺構を確認した。 このうち、縄文時代早期の遺構は調査区の北側直径30m程度の範囲分布する。219SI・357SIはやや小規模となるが当該期の竪穴建物の可能性を持つ。							

